

# ★山形聾学校小学部6年生のCさんが◆米沢市立塩井小学校へ 活動内容：連続した5日間を共に過ごす（1年生から交流を継続）

## 事前準備

### ◆塩井小学校 6年生

- ・コミュニケーションの方法について学習
- ・5年生までの振り返り
- ・学級だよりで保護者へお知らせ

### ★山形聾学校 Cさん

- ・自己理解チェックシートを活用して今の自分の強みと課題を洗い出し
- ・交流を通して身につけたい力を考え、目標を設定

### 私の目標

- ・困ったときに自分から交流先の先生や友だちに助けを求める。
- ・相手の話が聞き取れなかった時に、もう一度言ってもらえるようお願いしたり、紙に書いてもらうようお願いしたりする。
- ・補聴援助システムの使用を先生や友だちに依頼する。

## 当日の活動 〈米沢市立塩井小学校〉

### ◆塩井小学校 子どもたちの姿

- ・山形聾学校の教員が「聞こえに関する授業」を実施するとともに、Cさんが持参した補聴器や補聴援助システムを体験したことで、マスクを外して話したり、はっきりした声で話したりすることが大事だと自然な形で学んでいた。
- ・長年の積み重ねによりCさんを受け入れる環境が醸成されていた。Cさんがクラスにいることが日常になっていた。
- ・幼少期から共に遊んだ子どもたちは、より自然なコミュニケーションができていた。

### 学級全体の姿

- ・話し方、補聴援助システムの使い方、指差しの仕方など、伝達手段を工夫することで、子どもたちが「伝わった」という実感を持ち、自分も話しかけてみようとする積極的な姿が生まれていた。子どもたちのもっている気づきを支える、後押しするような教員のサポートも重要。
- ・低学年から継続することで、Cさんが居住地校の学級の一員であるという雰囲気、Cさんがいることが日常であるという雰囲気が醸成されていた。



### ★山形聾学校 Cさんの姿

- ・友だちとコミュニケーションをとろうとする姿があり、「休み時間に友だちと楽しみたい」と在籍校から本を持参していた。教卓の周りで友だちと談笑していた。
- ・補聴援助システムを持ち歩いて必要な場面で先生や友だちに依頼した。
- ・相手の話が聞き取れなかった時に「もう一度言って。」と伝えられた。時折、指示が分からない場面があっても周囲に合わせて活動できた。

## 事後学習

### ◆塩井小学校 6年生

- ・Cさんへ手紙を送る学習
- ・「聞こえに関する授業」の感想作成

### ★山形聾学校 Cさん

- ・写真や動画を用いた振り返り
- ・目標に対する評価

### 目標に対する振り返り

- ・はじめは緊張したけれど、だんだん自分から声をかけられるようになった。
- ・授業中、先生や友だちに補聴援助システムの使用を依頼し、適切に使ってもらえることができた。
- ・班での話し合いは、周囲の声もあり、聞き取りが難しかったが、ノートやプリントに書いてあるものを見せてもらいながら話し合いに参加できた。

### ◆塩井小学校 子どもたちの声

- ・「交流前に聴覚に障がいのある人がどうしているのかを調べて、マスクを外したり、はっきり話すようにしたよ。」
- ・（補聴援助システムを自然に使用していることについて）「必要なものだから使っている。当たり前のことだよ。」
- ・「続けているうちに、会話が成り立つようになって、だんだん笑顔で話しかけてもらえるようになったのが嬉しかったな。」
- ・「友だちが困っていたら助け合おうと、お互い笑顔になるし、それを見ていると自分も嬉しいよ。」
- ・「5年生の教科書にのっていた手話を教えてもらったり、家族から教えてもらったりしたよ。」
- ・「Cさんは昔から一緒に過ごしている友だちだよ。どうやって仲良くなったか、最初のことは忘れちゃった！」

### ◆塩井小学校 教員の声・指導のポイント

- ・交流をきっかけに、子どもたちは「自分以外の他の子どもたちのことに気づく」ということを体験的に学んでいた。
- ・Cさんに話しかける際は、ゆっくり話す、はっきり口を動かす、ということ意識した。Cさんも小学校の子どもたちも同じように理解できているかどうか確認しながら授業を行った。
- ・補聴器や補聴援助システムのデモ機を体験することができ、想像していた聞こえ方と違い、体験できて良かった。
- ・音楽の授業ではパートごとに楽譜を色分けして見て分かりやすいように工夫した。これは、普段の授業で他の学年でも行っている指導で、応用できた。
- ・交流で活用した支援の仕方、工夫は日頃の授業でも活用できると感じた。
- ・座席の場所など配慮が必要なことや今回の交流の趣旨は、事前に担任間で打合せをした。
- ・年度当初から、教室にCさんを含めたクラス写真を掲示した。

### ★山形聾学校 Cさんの声

- ・「塩井小で『聞こえに関する授業』をしたり、休み時間に補聴援助システムの聞こえ方を体験してもらったりして、聴覚障がいについて詳しく知ってもらえて嬉しかったな。」
- ・「授業中の話し合い活動は、友だちの声が聞き取れるか不安だったけれど、マスクを外してくれたり、紙に書きながら説明してくれたりして、安心して活動に参加することができたよ。」

### ★山形聾学校 Cさんの保護者の声

- ・コロナ禍の中でも、6年間継続して交流ができたことがありがたかったです。
- ・交流を通して、自分の障がいについてより深く理解してほしいという思いがありました。
- ・5年生になってからは、交流での経験を通して小学部卒業後の進路について考えるという目的もありました。
- ・普段、聾学校では少人数で学習していますが、塩井小で集団での学習に参加することで、集団の中で自分の意見を伝えるという経験ができました。

### ★山形聾学校 教員の声・指導のポイント

- ・交流を行う前に、昨年度の様子などを振り返りながら、今年度の交流ではどんな力を身につけたいかを本人と一緒に考えたことで、本人も交流中に意識しながら取り組むことができた。
- ・本人の思いやニーズに合わせて、今回の交流ではできるだけ聾学校の担任の力を借りずに自分の力で頑張るという目標を決めて行った。事前の担任間の打合せで交流の趣旨をお伝えさせていただいた。当日の授業では、居住地校の様々なご配慮・ご協力のもと、自分の力で頑張ることができたと思う。